人物をモチーフに含む西洋更紗の主題の特徴についての一考察
―共立女子大学博物館所蔵の西洋更紗を手掛かりに―

小池　奏衣（共立女子大学博物館学芸員）

はじめに

共立女子大学博物館には51点の「西洋更紗」が所蔵されている[注1]。西洋更紗とは、ヨーロッパで制作された更紗のことである。元来、「更紗」はインドが発祥であったが、17世紀後半以降、東インド会社の交易によってヨーロッパにもたらされ、大流行した。18世紀後半には、ヨーロッパに捺染工場が設立され、更紗の制作が行われるようになった。捺染工場の更紗制作は、インド更紗の摸倣から始まり、次第に独自の発展を遂げた。その特徴のひとつに、人物モチーフの出現が挙げられる[注2]。

共立女子大学博物館が所蔵する西洋更紗51点のうち25点は、人物をモチーフに含んでいる（表１）[注3]。これらの資料は、1990年代に購入されてから継続的に調査・研究されてきた。そのため、各資料の法量・制作年代・主題・基となる作品の有無などの情報は、概ね明らかになっている（図１、２）。しかし、詳細が不詳のもの、完全な特定がなされていないものも存在する。そのため、本研究では、詳細が明らかでない資料のうち、資料ID: 2427、2136、2151、2206について調査を行い、制作年代ほかにつき考察を行う。また、上記４点の資料について明らかにした上で、表１の西洋更紗25点を中心に、人物をモチーフに含む西洋更紗の主題の特徴を考察していくこととする。

図１
資料ID: 2437
小さな酒飲み
共立女子大学博物館蔵

図２
ヴァトーの絵による
ピエール・アヴリンの版画
パリ国立図書館版画室蔵

表１　共立女子大学博物館所蔵の西洋更紗のうち、人物を含むもの 25 点

資料ID	2129	2133	2134	2135	2136
資料に付された キーワード	農村風景	寓話	女神、キューピット	洋花、鼓笛隊	カリュドーンの猪
制作年代	18～19世紀	18～19世紀	18～19世紀	18～19世紀	18～19世紀
資料画像					
資料ID	2138	2139	2146	2151	2158
資料に付された キーワード	天使、女性、草花	縄くぐり？	庭園風景	婦人、天使、水辺風景	草花、寓話
制作年代	18～19世紀	18～19世紀	18～19世紀	18～19世紀	18～19世紀
資料画像					
資料ID	2206	2207	2208	2209	2211
資料に付された キーワード	神話	レリーフ模様	杯を持つ女性、子供、果物	家族、女性、子供、果物	不詳
制作年代	1785～1789年	1785～1789年	1810年	1810年	1785～1789年
資料画像					
資料ID	2427	2428	2429	2430	2431
資料に付された キーワード	「パニュルジュ」の一場面か	農村風景	ルイ16世シュルブール滝を散歩	フランドルの祭り	世界四大陸
制作年代	1785～1790年	1810年	1787年	1797年	1785年
資料画像					
資料ID	2432	2433	2434	2435	2437
資料に付された キーワード	世界四大陸	木陰で授乳する親子、草花	神の休戦	セントヘレナ島のナポレオン	小さな酒飲み
制作年代	1785年	18世紀末	19世紀初め	19世紀中頃	1784年
資料画像					

資料 ID: 2427（図３）について

資料 ID: 2427 は、共立女子大学博物館の調書に、法量が経 28cm・緯 51cm、制作年代が 1785 年から 1790 年までの間、制作地域がフランスのナントであると記されている。制作工場は不詳である。また、模様の主題については「パニュルジュの一場面か」と書かれており、断定はされていない。パニュルジュとは、ルネサンス期のフランスで書かれたフランソワ・ラブレーの文学作品『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』の登場人物である。しかし、『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』においてパニュルジュが登場する場面は無数にあるため、現時点では特定が難しい。

主題を明らかにするべく類似資料の有無を調査した結果、シカゴ美術館、フィラデルフィア美術館、メトロポリタン美術館及びヴィクトリア＆アルバート博物館（以下 V&A）に資料 ID: 2427 と近しい特徴を持った資料が所蔵されていることが明らかとなった。下記に各館が公表している情報を記す。

図３
資料 ID: 2427
パニュルジュの一場面か
共立女子大学博物館蔵

シカゴ美術館所蔵の資料

シカゴ美術館は、図４をオンライン上のデータベースで公開している。資料名は、≪ Panurge dans l'île des lanternes ≫（英：Panurge on the Isle of Lanterns）で、制作年代は 1785 年から 1790 年までの間、制作工場は Petitpierre et Cie. であると記している。また、この工場はナントに 1760 年から 1791 年まで所在したという記載もある。図４の該当部分に注目すると、図３と図４はこの資料と同一の型を用いて制作された可能性があると考えられるが、モチーフが反転している。しかし、図３と図４に表記されている制作年代と制作地域が一致していることから、同一の工場で、同一の型から制作された可能性は高いと言えるだろう。

フィラデルフィア美術館所蔵の資料

フィラデルフィア美術館は、図５を公開し、資料名を≪ Le Triomphe de Panurge dans l'Île des Lanternes ≫としている。≪ Le Triomphe ≫（大勝利）という用語は、シカゴ美術館のデータベースには用いられていなかった表現である。しかし、制作年代と制作工場についてはシカゴ美術館と同一の記載がなされていた。上記のことに加え、資料自体にも同様のモチーフが見受けられることから、同一の資料であると言えるだろう。

図４
Panurge dans l'île des lanternes
シカゴ美術館蔵

図５
Le Triomphe de Panurge dans l'Île des Lanternes
フィラデルフィア美術館蔵

メトロポリタン美術館所蔵の資料

メトロポリタン美術館も、シカゴ美術館と同様に≪ Panurge dans l'Île des lanternes ≫という資料名で、図６を公開している。しかし、図６には図３、４、５に共通していたモチーフが見られない。また、この資料はメトロポリタン美術館が受け入れる以前に、≪ Le Triomphe de Panurge dans l'Île des Lanternes ≫という名称を持っていたようである。なお、この名称はフィラデルフィア美術館が所蔵する図５の資料名と同じである。

メトロポリタン美術館は、図６の制作年代を 1786 年から 1787 年までの間であるとしている。この点も、シカゴ美術館、フィラデルフィア美術館の記述とは異なっている。制作工場については Petitpierre et Cie. であるとしつつも、工場は 1790 年から 1802 年まで所在したと記している。これは、シカゴ美術館、フィラデルフィア美術館が記載していた Petitpierre et Cie. の所在年（1760 年から 1791 年まで）と異なっている。Petitpierre et Cie. が 1790 年前後に一度工場を閉め、新たに開きなおした可能性もあるが、詳細については明らかでない [注４]。以上のことから、メトロポリタン美術館の情報を資料 ID: 2427 の調査に用いることは難しいと判断した。

V&A 所蔵の資料

V&A は、“Panurge on the Island of Lanterns” という資料名で図７を公開している。先に述べた３館は資料名を原語（フランス語）としていたが、V&A は英語で登録している。また、シカゴ美術館のみ、その資料名に英訳をつけていたが、その際に用いていたのは V&A が採用している Island ではなく Isle であった。Longman Dictionary of Contemporary English によると、どちらも「島」であることに違いはないが、Isle の方が詩的表現に向く用語であるという。

V&A は、図７の制作年代を 1785 年から 1790 年までの間、制作工場は Petitpierre et Cie. であると記している。これらの情報は、シカゴ美術館、フィラデルフィア美術館と同じである。その上、図７の主題について、以下のように述べている。

図６
Panurge dans l'île des lanternes
メトロポリタン美術館蔵

図７
Panurge on the Island of Lanterns
V&A 蔵

作品の主題は、フランソワ・ラブレーが著した小説『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』（全５巻）に登場する狡賢い人物、パニュルジュである。『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』の第４巻で、パニュルジュは東アジアへ船出する。本作は、1564 年に出版された最終巻での彼らの冒険の様子を表している。

（日本語訳は筆者による）

以上のことから、資料 ID: 2427 は、資料名を≪ Panurge dans l'Île des lanternes ≫とすべきものと考えられる。また、V&A がオンラインデータベース内で図 7 の主題であると示した『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』の最終巻において、「提燈国」（第 32 章）、「提燈」（第 32 ～ 34 章）、「燈明人」（第 33 章）、「洋燈」（第 42 章）という用語が登場した。これらの用語はどれも資料名に用いられている≪ Lanterns ≫に類似したキーワードであり、『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』の最終巻において象徴として幾度となく登場している。また、『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』が示す「洋燈」（図 8 ）と資料 ID: 2427 に描かれている≪ lanternes ≫（図 9 ）の形状が類似していることからも、≪ Panurge dans l'Île des lanternes ≫（洋燈の島のパニュルジュ）という資料名が適切であると言えるだろう。

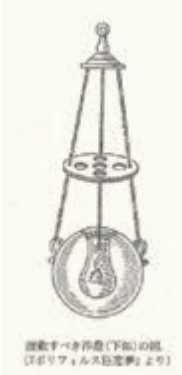

図 8
『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』
において示されている「洋燈」

図 9
資料 ID: 2427
（Lanterns 部分の拡大）

資料 ID: 2136（図 10）について

次に、資料 ID: 2136 について見ていくこととする。資料 ID: 2136 について調書内で記されている情報は、制作年代が 18 世紀から 19 世紀の間であることと、制作地域がフランスまたはイギリスであること、そして主題が「カリュドーンの猪」であることのみであった。「カリュドーンの猪」とは、ギリシア神話に登場する巨大な猪で、たびたび絵画の主題として取り上げられてきた。特にバロック期の画家ルーベンスは、「カリュドーンの猪」を主題とする絵画作品を残している（図 11、12）。そのため、これらの作品の中に資料 ID: 2136 の基となった資料がある可能性があると言える。

図 10
資料 ID: 2136
カリュドーンの猪
共立女子大学博物館蔵

図 11
メレアグロスとアタランテーの狩り
1616/1620 年頃
ピーテル・パウル・ルーベンス
ウィーン美術史美術館蔵

図 12
カリュドーンの猪狩り
1611 ～ 1612 年
ピーテル・パウル・ルーベンス
J・ポール・ゲティ美術館蔵

資料 ID: 2151（図 13）について

次に、資料 ID: 2151 について見ていく。資料 ID: 2151 について調書内で述べられていることは、制作年代が 18 世紀から 19 世紀の間であること、制作地域がフランスもしくはイギリスであるということのみであった。また、同一の調書には、資料 ID: 2151 のキーワードとして「婦人」、「天使」、「水辺風景」という用語が挙げられていたが、主題に関する情報はなかった。しかし、シカゴ美術館と V&A に類似資料の所蔵があることを確認できたため、それぞれが公開しているデータベースの内容を以下に記し、照合を行うこととする。

シカゴ美術館所蔵の資料

シカゴ美術館は、図 14 について、資料名を、≪ L'Agréable leçon ≫（英：The Pleasant Lesson）、制作年代を 1785 年から 1790 年までの間、制作工場を Petitpierre et Cie. であると記録していた。なお、基となった作品については、ロココ期の画家であったフランソワ・ブーシェの絵画であるとしているが、具体的な作品名については述べられていない。

V&A 所蔵の資料

V&A は、図 15 について、資料名を "The Art of Loving or The Pleasant Lesson" とし、制作年代は 1785 年から 1790 年までの間であると記している。また、図 15 は、複数の絵画作品の組み合わせで出来ており、フランソワ・ブーシェの絵画を基に制作された版画≪ L'Agréable leçon ≫（図 16）と、≪ Les Amans Surpris ≫（図 17）、そして現在は失われた絵画作品の計 3 点で構成されているとも述べている。

資料 ID: 2151 は、制作年代・制作地域ともに特定されていなかったが、資料 ID: 2151 と同時期に購入された資料群と、シカゴ美術館及び V&A が示している図 14、15 の制作年代、制作工場についての情報は一致している。このことから、資料 ID: 2151 と図 14、15 は同一の資料である可能性が高い。また、資料 ID: 2151 は図 14、15 と比較すると約 3/4 が失われており、現存している部分がごく一部であることが明らかになった。その上で、V&A が公開している図 15 の基となった現存作品 2 点と、図 15 [注5] を照らし合わせたところ、図 18 は図 16 が、図 19 は図 17 が基となる作品であったことを確認することができた [注6]。このことから、資料 ID: 2151 で残された部分は、現在は失われているとされる絵画の摸倣であった可能性が高いと言うことができるだろう。

図 13
資料 ID: 2151
共立女子大学博物館蔵

図 14
L'Agréable leçon
シカゴ美術館蔵

図 15
The Art of Loving or The Pleasant Lesson
V&A 蔵

※資料 ID: 2151 は青枠の部分のみが現存している

図 16
L'Agréable leçon
1758 年
ルーブル美術館蔵

図 17
Les Amans Surpris
18 世紀
メトロポリタン美術館蔵

図 18
図 16 から制作されたと考えられる部分
左上に≪ L'Agréable leçon ≫という一文を確認することができる

図 19
図 17 から制作されたと考えられる部分

資料 ID: 2206（図 20）について

資料 ID: 2206 については、制作工場がオーベルカンプ、制作年代が 1785 年から 1789 年の間であるという記録が調書にある。また、資料 ID: 2206 には「神話」というキーワードが付されているが、それ以上の情報は確認できなかった。しかし、シカゴ美術館に類似資料の所蔵があることを確認できたため、シカゴ美術館が公開しているデータベースの内容を以下に記すこととする。

シカゴ美術館所蔵の資料

シカゴ美術館は、図 21 をオンライン上のデータベースで公開している。資料名は、≪ Le Char de l'Aurore ≫（英：The Chariot of Dawn）、制作年代は 1785 年から 1790 年までの間、制作工場は Petitpierre et Cie. であるとしている。図 20 と図 21 は、制作工場の記載が一部異なるが、制作年代と制作地域が一致していることから、同一の型から制作された可能性が高いと考えられる。

また、シカゴ美術館のデータベースには、図 21 がグイド・レーニなどの絵画作品を模倣して制作されたものであると記載があった。グイド・レーニとは、図 11、12 の作者であるルーベンスと同様、バロック期に活躍した画家である。シカゴ美術館は図 21 がレーニのどの作品の模倣であるかについては明記していないが、おそらく≪ L'Aurore ≫であるだろう（図 22）。また、シカゴ美術館の「グイド・レーニなどによる絵画の摸倣」という一文の中の「など」という表現については、レーニが後進の指導も行っていたことから、弟子の習作の可能性であることを踏まえたものであると推測した。

図 20
資料 ID: 2206
共立女子大学博物館蔵

図 21
Le Char de l'Aurore
シカゴ美術館蔵

図 22
L'Aurore
1612 ～ 1614 年
パラヴィチーニ＝ロスピリオージ宮殿

考察

ここまでで、資料 ID: 2427、2136、2151、2206 の調査を行った。その結果、資料 ID: 2427 は『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』の最終章を主題としていたこと、資料 ID: 2136 はルーベンスの「カリュドーンの猪狩り」を模倣している可能性があること、資料 ID: 2151 はフランソワ・ブーシェなどの作品を摸倣した版画で構成された更紗の一部であったこと、そして資料 ID: 2206 はグイド・レーニの作品を模倣していることが明らかとなった。

これらの結果を踏まえ、表 1 で示した 25 点を中心に、人物をモチーフとする西洋更紗の特徴について考察していきたい。まず、表 1 を見ると、これらの西洋更紗は、それぞれ異なる主題を持っていることがわかる。そして、それらは大きく 3 つに分類することができる。一つ目は風景を主題としたもの（注 7）、二つ目は絵画、文学、戯曲の一場面などから主題を模倣したもの、三つ目が為政者を主題としたものである。本論では、二つ目に挙げた既存の芸術作品から摸倣された主題の特徴と、三つ目に挙げた政治的な主題の特徴について、考察を進めることとする。

既存の芸術作品から主題を模倣した西洋更紗

既に述べたように、西洋更紗は絵画を模倣して制作される場合が多くあった。この例には、資料 ID: 2136、2151、2206、2437 が挙げられる。また、資料 ID: 2427 に見られる『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』だけでなく、1791 年にダニエル・デフォーが発表した小説『ロビンソン・クルーソー』（図 23）のような文学作品、そして 1780 年に描かれた『フィガロの結婚』（図 24）といった戯曲作品も、それらの一場面が主題となり、西洋更紗上に描かれてきた。特に『フィガロの結婚』においては、作品の発表時期と西洋更紗にその作品の一場面が主題として取り上げられた時期がほとんど同時期であった（注8）。

図 23
ロビンソン・クルーソー
1810 年
V&A 蔵

図 24
フィガロの結婚
1785 年
オーベルカンプ博物館蔵

これらのことから、西洋更紗の主題には、その時代の流行が顕著に反映されていたと言うことができるだろう。特に、資料 ID: 2136、2206 からは、18 世紀中頃に台頭した新古典主義の影響を読み取ることができる。新古典主義とは、古代ギリシャ・ローマの様式を規範とする主義のことである。この流行は、1748 年に行われたポンペイでの発掘調査によって更に高まりを見せた。特にその直接的な影響は、西洋更紗に描かれる人物の服装からも確認することができる（図 25、26、27）。

図 25
資料 ID: 2207
共立女子大学博物館蔵

図 26
ポンペイのモチーフ
1808 年
オーベルカンプ博物館蔵

図 27
ジャン＝バティスト・ユエのデザイン画
1800 年
オーベルカンプ博物館蔵

また、フランスで最も大きな捺染工場であったオーベルカンプ工場においても、設立者のオーベルカンプと図案制作者のジャン＝バティスト・ユエとの間で以下の一文を含む手紙のやり取りが行われていた。この一文からも、当時のフランスにおいて、古典古代の流行がどれほど大きなものであったかを知ることができる（注9）。

> 今、家具はすべて古代風のもので揃えられるようになっています。そこで居間を飾る壁布にも、古代風の特徴を出したものが使われるようになるでしょう

以上のことから、既存の芸術作品の主題を模倣した西洋更紗の一部は、古典主義の流行をはじめとする時代の影響を多大に受けていたことが明らかとなった。

政治的な主題を持つ西洋更紗

次に、政治的な主題を持つ西洋更紗についての考察を試みる。政治的な主題を持つ作品には、資料 ID: 2429（図 28）と 2435（図 29）が該当する。これらの資料を比較すると、資料 ID: 2429 にはルイ 16 世が、2435 ではナポレオンが描かれている。どちらも為政者だが、描かれ方には大きな違いが見られる。まず、資料 ID: 2429 は 1787 年に制作されたもので、前年に行われたルイ 16 世のシェルブールへの視察が主題になっている。この視察は、シェルブールに軍港を建設するために行われた。このことから、ルイ 16 世にフランス海軍を強固にする志があったことが読み取れる。また、ルイ 16 世が、船上で人々を率いるような描かれ方をしていることからもわかるように、18 世紀中頃には、国力向上を求める為政者を肯定的に表す主題が多く用いられていた。その一方で、資料 ID: 2435 には、ナポレオンと妻のジョセフィーヌの胸像と、二人が埋葬されている風景が描かれている。調書には、制作年代が 19 世紀中頃であるという記載しかないが、ナポレオンが死去した 1821 年より後に作られたものであると考えてよいだろう。

西洋更紗上における為政者の描かれ方にこれほどの大きな違いが見られるようになったのは、1789 年に勃発したフランス革命以降のことであった。革命以前のフランスでは、聖職者と貴族にのみ特権が与えられており、市民は政治的権利を持つことができないだけでなく、重い税負担などを背負わされていた。このような身分制は、近代化していく社会において市民の発展を非常に妨げていた。こうした状況を問題視する市民の声が大きくなりつつあった 18 世紀後半に、市民が中心となって起こした革命が、フランス革命であった。

フランス革命以降に制作された西洋更紗において、為政者を肯定的に描いた作品はほとんど確認できていない。このことから、フランス革命以前と以後で為政者の描かれ方が大きく変化したと言うことができる。また、為政者に対する市民の感情の変化が、西洋更紗上に如実に反映されていたと考えることもできるだろう。

図 28
資料 ID: 2429
ルイ 16 世シェルブール港を訪問
共立女子大学博物館蔵

図 29
資料 ID: 2435
セントヘレナ島のナポレオン
共立女子大学博物館蔵

おわりに

ここまでで、既存の作品から主題を模倣した西洋更紗と、政治的な主題を持つ西洋更紗の特徴について考察した。その結果、双方にはその時代の流行や象徴的な出来事が反映されるという共通点があることが明らかになった。特に、資料 ID: 2427 は『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』が主題であったが、『ガルガンチュアとパンタグリュエル物語』とは、既存の権威を風刺する内容であったため、禁書目録に掲載されたことがある文学作品であった。同じく『フィガロの結婚』も、召使の結婚に際し、主の貴族と召使が敵対するものの、最終的に貴族が敗北するという風刺的な戯曲作品で、上演禁止を命じられたことがあった。これら

のように政治に対する批判的・風刺的な主題を持つ作品の一場面を西洋更紗上に表現することで、暗に政治批判を行っていた可能性もあったと考えることができるだろう。

なお、既存の作品の主題を西洋更紗に用いるときは、既存の作品の発表から既に時間が経過していた場合も多いと考えられる。その場合、既存の作品が、発表時には強い意味を持っていたとしても、時間の経過とともにそれらが形骸化していく場合もあっただろう。それでも、このように様々な主題を持った西洋更紗が次々と登場したのは、真新しいものを追い求める心理が消費者にあったからであると考えることができる。

謝辞

本稿の執筆にあたり、長崎巌教授（当館館長、共立女子大学家政学部被服学科教授）にご指導いただきました。心より感謝申し上げます。

注

1）代表的な西洋更紗の名称に「トワル・ド・ジュイ」が挙げられるが、これはジュイ＝アン＝ジョザスに設立された工場（オーベルカンプ工場）で制作された西洋更紗を指す用語である。共立女子大学博物館所蔵の西洋更紗の中にはオーベルカンプ工場で制作されていないものもあるため、本論では「トワル・ド・ジュイ」という用語を用いず、一律して西洋更紗と呼ぶこととする。
2）この特徴は、草花をモチーフとすることが多いインド更紗にはあまり見られない。
3）このうちの 7 点は、2022 年 1 月 11 日から 2 月 26 日までに開催した企画展「感嘆詞ではじめる美術入門　かわいい・怖い・ふしぎ！」において展示した。
4）ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990、p.162 では、ナントに所在した捺染工場のひとつに、プチピエール・ド・ヌーシャテル兄弟の工場が挙げられている。この工場は 1760 年に設立され、1846 年まで操業した。工場の設立者の名前から、プチピエール・ド・ヌーシャテル兄弟が設立した工場が Petitpierre et Cie. の前身である可能性は高いが、詳細は明らかでない。
5）基となった絵画作品について言及しているのは V&A だが、資料画像の解像度の都合で、照合にはシカゴ美術館の資料を使用した。
6）基となる絵画作品等をそのまま転写・彫刻・捺染する場合、完成した西洋更紗の模様は反転する。
7）風景を主題とした西洋更紗は、資料 ID: 2199、2146、2418 が該当する。これらには「農村風景」、「庭園風景」、「水辺風景」などのキーワードが付されており、いずれも 18 世紀後半以前より存在していた可能性の高いものであった。
8）『フィガロの結婚』の初演は 1894 年であった。初演の翌年には既に西洋更紗上に同作品の主題が描かれている。
9）ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990、p.141

参考文献

ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990
フランソワ・ラブレー（渡辺一夫訳）『ガルガンチュワ物語』、岩波書店、1984
フランソワ・ラブレー（渡辺一夫訳）『パンタグリュエル物語 第 2 之書～第 5 之書』、岩波書店、1984
山口康助、浅香勝輔、平田嘉三編『歴史人物辞典』、ぎょうせい、1975

図像出典

図 1：共立女子大学博物館
図 2：ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990、p.99
図 3：共立女子大学博物館
図 4：シカゴ美術館コレクション（2021 年 11 月 22 日閲覧）
https://www.artic.edu/artworks/31483/panurge-dans-l-ile-des-lanternes-panurge-on-the-isle-of-lanterns-furnishing-fabric
図 5：フィラデルフィア美術館コレクション（2021 年 11 月 22 日閲覧）
https://www.philamuseum.org/collection/object/151212
図 6：メトロポリタン美術館コレクション（2021 年 11 月 22 日閲覧）
https://www.metmuseum.org/art/collection/search/222090
図 7：V&A コレクション（2021 年 11 月 22 日閲覧）
https://collections.vam.ac.uk/item/O259331/panurge-on-the-island-of-furnishing-fabric-fragment-unknown/?carousel-image=2009CT1220
図 8：フランソワ・ラブレー（渡辺一夫訳）『パンタグリュエル物語 第 5 之書』、岩波書店、1984、p.185
図 9：共立女子大学博物館
図 10：共立女子大学博物館
図 11：ウィーン美術史美術館コレクション（2022 年 1 月 20 日閲覧）
www.khm.at/de/object/9327969053/
図 12：J・ポール・ゲティ美術館コレクション（2022 年 1 月 20 日閲覧）
http://www.getty.edu/art/collection/objects/226430/peter-paul-rubens-the-calydonian-boar-hunt-flemish-about-1611-1612/
図 13：共立女子大学博物館
図 14：シカゴ美術館コレクション（2022 年 1 月 12 日閲覧）
https://www.artic.edu/artworks/56102/l-agreable-lecon-the-pleasant-lesson-furnishing-fabric
図 15：V&A コレクション（2022 年 1 月 12 日閲覧）
https://collections.vam.ac.uk/item/O318834/the-art-of-loving-or-furnishing-fabric-favre-petitpierre-et/
図 16：ルーブル美術館コレクション（2022 年 1 月 12 日閲覧）
https://collections.louvre.fr/en/ark:/53355/cl020557781
図 17：メトロポリタン美術館コレクション（2022 年 1 月 12 日閲覧）
https://www.metmuseum.org/art/collection/search/413501
図 18：前掲（14）
図 19：前掲（15）
図 20：共立女子大学博物館
図 21：シカゴ美術館コレクション（2022 年 1 月 14 日閲覧）
https://www.artic.edu/artworks/31513/le-char-de-l-aurore-the-chariot-of-dawn-furnishing-fabric

図 22：グローブ・アート・オンライン・オックスフォード・アート・オンライン
（2022 年 1 月 20 日閲覧）
https://www.oxfordartonline.com/groveart/view/10.1093/gao/9781884446054.001.0001/oao-9781884446054-e-8000015477?rskey=OrcYbm&result=2
図 23：V&A コレクション（2022 年 1 月 14 日閲覧）
https://collections.vam.ac.uk/item/O225588/robinson-crusoe-printed-cotton-pieters-f/
図 24：ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990、p.137
図 25：共立女子大学博物館
図 26：ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990、p.155
図 27：ジョゼット・ブレディフ（深井晃子訳）『フランスの更紗ジュイ工場の歴史とデザイン』、平凡社、1990、p.153
図 28：共立女子大学博物館
図 29：共立女子大学博物館

Clothing Materials of Shibusawa Eiichi and his Wife, Chiyoko, - Clothing as Historical Materials

Kawai Yukako

[Abstract]

Kyoritsu Women's University Museum has a fur cloak belonging to Shibusawa Eiichi and two kimonos belonging to Chiyoko. In addition to examining the date and use of these garments, this paper discusses the concept of clothing of Mr. and Mrs. Eiichi Shibusawa based on the historical documents and the artworks in the museum's collection. The fur cloak was made and worn during the early Meiji period, when the wearing of fur clothing was permitted, and is thought to be a garment that incorporated Shibusawa's flexible thinking due to its haori-like tailoring. As for Chiyoko's kimono, it was worn in the 1877s, before her illness and death, and it reflects her solid character, as it is typical of the rat-red hem patterned kimono that was popular in the early and mid-Meiji period. These materials are not only valuable as works of art, but are also considered to be historical materials that provide a clearer portrait of the modern historical figures.

A Study on the Characteristics of Themes of the Western Chintz with a Figure as a Motif: Using the Western Chintz in the Collection of Kyoritsu Women's University Museum

Koike Kanae

[Abstract]

Kyoritsu Women's University Museum has 51 western chintz, 25 of which contain a figure as a motif. In this paper, we examine the details of four items (IDs: 2427, 2136, 2151, and 2206) that were under investigation from 25 western chintz. This study investigates object details using database of The Art Institute of Chicago, The Philadelphia Museum of Art, The Metropolitan Museum of Art, and the Victoria and Albert Museum. Moreover, this paper describe the characteristics of western chintz with a figure as a motif including 25 western chintz in the Kyoritsu Women's University Museum.

It became clear that most of them can be divided into the following three groups: those with landscape themes, those with themes from works of art, and those with political themes. In this paper, we especially examine those with themes from works of art and those with political themes. About those with themes from works of art, some were affected by literature and drama that had just came out at the time, while others were influenced by neoclassicism. It seems that this phenomena is associated with excavation of Pompeii. About those with a political subject, they have changed how the politicians are depicted before and after French Revolution.

According to these results, it was concluded that there were cases where the themes of western chintz reflected interest and symbolic events of the times.